



発行 KOA 森林塾 (事務局) 0265-70-7065
 編集 早川清志
 題字 島崎洋路

集中コース夏の部 開催報告
 『連日の猛暑日!!伊那谷にて』

東京、神奈川、愛知からお二人ずつ、そして岐阜から一人の計7人の方々は「信州の夏、涼しい夏」と、少しは期待しておいでになったことでしょうか。ところがどうも、豈図らんや、地元から参加の3人の方もびっくりの伊那市は連日の猛暑日で35超え。そんななかでの森林塾集中コース夏の部三日間の開催でした。



輪尺で樹高を測ることも出来ます

一昨年の夏を凌駕するよいうなこの暑さも、標高1000mを超えて森林の中、木陰の下だと随分涼しい。そして涼しい風も吹き、熱中症で倒れる塾生の方もなく、順調に、森林の現況調査とサワラやアカマツなどの伐倒、そして簡易ウインチによる集材をこなしたのでした。



記録係は復唱を忘れずに

20年近く前に森林塾で

間伐を行っています。しかしやはりその後の手入れが滞っていたでしょう。現在は再度の間伐が必要な状態のようで、塾生の方々の診断でも要間伐の結果が見えてきました。樹高も順調に伸び、そして柱材も十分採れる太さになってきているため、間伐して元の取れる、即ち間伐材の代金で間伐費用が賄える林分である、というのが山師の親方、川島さんの意見でした。幹線道路に隣接し、集材材の便が良いのも利点であると。間伐材単価の安い現



昭和三十年代の伐倒風景(うそ)

在、間伐費用が賄える林分は稀なのですが、山主さんはそういったことをご存知かどうか、ぜひ再度の手入れをしてもらいたい林分でした。

現場を変えて、一日目、三日目は伐倒と集材。樹高は二十数メートルもあり、時にかかり木にもなりますが、山側に作ったかかり木はトビヤチルホールを使えばそれほど問題なく外せます。かかり木は作らない、のは鉄則ですが、

かかり木になりそうな場合は、外しやすいかかり木にする。外しにくいかかり木になりそうな木は切らない(保留する)

伐倒前には必ず、梢がどこを通り、どこに倒れるかをイメージした上で取り掛かることが大切です。さて、終わってみると

あつという間の三日間でした。間伐のための現況の調査、そしてそのデータの分



T定規で伐倒方向を確認

析と診断、さらに選木を経て実際の間伐作業に入るわけです。出来れば集材の方向に倒し、そして検知から枝払い、玉切り、集材と一通りの手順を体験していただきました。短期間でもあり、すべてをご理解いただけただかどうか自信はありませんが、この実習で身に付けたことを今後生かしてくだされば大変ありがたいと思っています。

集中コース夏の部

8月3~5日(金~日)

一日目

8時30分 開講。10人の方に参加していただきました。簡単な自己紹介の後、森林現況調査の講義。その後歩いて平地林の現場に行き、二班に分かれてデータ取り。

二日目

12時 小屋に戻って昼食後、現況診断の講義、実習。班毎の施業診断が完了し、発表。さらに現場のヒノキ林に戻ってプロット内の選木をする。間伐の目的が違えばどんな形質

二日目

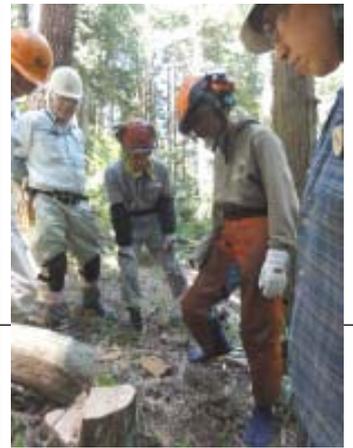
8時30分 今日からはチェーンソーを使った実践。始動、玉切り、受け口作りなどを小屋の前でまず練習。その後分乗して鳩吹山の現場へ。ここは川島さんが請け負っている寺社有林。良質なヒノキのみを残す間伐。今日は一日伐倒。出来れば林道方向に。

三日目

8時30分 山小屋集合。イントラ川島の師範代として

三日目

夕方からはパークキユーで交流会。温泉組が戻る前に、ランニングスタートが始まった。若い方が多いので、肉、野菜がどんどんなくなる。例によって最後は講師が一人で騒いでいたような。



確認も何となく引く。傾斜のあまりない、小規模の集材には手頃な機械です。チェーンソーのお掃除も終わり、集中コース夏の部三日間が終了。お疲れ様でした。



一方、先山さんは忙しい



一方、先山さんは忙しい

今日は古畑青年が二班を担当。そこそこ太いアカマツやサワラもチルホルを使っての牽引伐倒に挑戦。
午後は、交代で「ひっぱりだこ」というふざけた名前の簡易ウインチで集材。この機械は牽引能力が350キロなので、人力ではとても集められそ

第十一・十二回

9月14・15日(金土)

見学

14日は、木材の相場が決まる伊那市木材市場と有賀建具店を見学し、地域材流通と、利用について学びます。長野県マイスター認定の親方のお話は必聴です。8時30分、山小屋集合。

翌15日は大町市の山林見学です。午前は山仕事創造舎代表理事、香山さんの施業した山林でお話を聞き、午後

は荒山林業さんの広葉樹施業も含めた山林を歩きます。この日は朝8時に伊那インター付近で車に乗り合わせて出発予定です。

専門コース第二回開催

9月27・29日(木土)

出来れば少し傾斜のある山林での伐倒練習を行いたいと思っております。山側に倒すことや、安全なかり木の処理方法を身につけていただきたい。

おわりに

ロング・バケーションが終わり、重い足を引きずって今週から職場へ、という方も多いと思われる処暑近いこの頃ですが、昼間の暑さはまだ相当。ところでロング・バケーションといえばキムタクと山口智子のじゃなくて、大滝詠一のを思い浮かべるあなたも相当古い人?「君は天然色」懐かしいなあ。

リレー通信



念ずれば 花ひらく
矢崎 真治

倒作業も少しやらせて貰っております。
今回「専門コース」に参加する理由として、チェーンソー経験が、10年選手に成るにもかかわらず、チェーンソーの取り扱いが自己流で、メンテナンスに至っては、ほとんど苦手で調子が悪くなってしまうから他人にお願いするというのが有様だったので、一から基礎を学ぼうと思ったことが一つです。

実は「森林塾」に参加しようと思っただけの動機があります。
私の勤務先は県内に8店舗あるパチンコ店を営んでいます。たぶんKOAの従業員の方にも何名様かは、ご利用して頂いている南箕輪村々内にも2店舗を営業しております。従業員はアルバイト・パートを含め150名強を有し、平均年齢は27歳と、比較的若い人の集まる職場です。ひと昔前には地元

の若い人の職場としては、ほとんど選ばれない職種でしたが、最近では地元で実家から通う人が多くなるまでに成りました。
そんな若い従業員が休みの日に何をしているのかというところ、違うパチンコ屋に行つて遊んでいる者が大変多いことです。私は休みといえば新作りは勿論、夏は登

山、冬はスキーに、その他にもすがれ追ひ(地蜂捕り)、パレーボールに松本山雅観戦と、少ない休日をいっぱい遊びながら、沢山の人と接してパワーを貰っています。普段から従業員達に、若いうちからいろいろな人と接して、引き出しを幾つも持とうと言つてはいますが、言うだけでは、行動に移してくれる者はいません。それが実情です。

そんな社内の状況を変えようと、イベントやボランティア活動への参加を奨励してきました。(栄村の震災への炊き出し参加、東日本大震災支援フリーマーケット開催、児童養護施設つじが丘学園への支援活動、養護老人ホーム入居者無料パチンコ招待、大町アルプスマラソン参加、武田の里50キロウルトラウォーク参加、諏訪湖マラソン参加、経ヶ岳社員登山)
地域活動を通して、若いうちに幾つかの引き出しを持つことの意味を感じてくれるように成つたと思います。
こうした活動の次に何をを行うか模索している時に、長野県の「森林(もり)の里親促進事業」という長野県林務部の取り組みを知りました。この活動を通して、社員教育や地域の方々との交流ができればと、早速申し込みまし



上伊那地方事務所林務課、千代さんのご尽力の甲斐あって、南箕輪村々有林(大泉川上

た。当初は林務課の担当の方も快く対応してくださり、間伐ボランティアの地域選定を進めていました。が、突然「森林(もり)の里親促進事業」の規約に風適法認可法人にはこの取り組みは出来ない、との記載が有る為という理由で、断られてしまったのです。(パチンコ業は風適法第2条第1項第7号の対象業種)せつかく盛り上がった森林ボランティアへの思いを、こんなことで諦めるには悔しいと思い、県の林務課以外で同じような活動を行っている団体を探しました。

そんな時、インターネットで特定非営利活動法人「森のライフスタイル研究所」のHPを見つげ連絡しましたら、早々に代表の竹垣さんとお会いすることが出来、今回の経緯を伝え相談に乗ってもらったのです。竹垣さんと

流部)を当社が森林整備ボランティアと地域交流の場にすることが出来ました。さらに竹垣さん、千代さんの働きかけで、県の「森林(もり)の里親促進事業」の規約も一部改正して頂き、なんと南箕輪村と当社とで「森林(もり)の里親協定」を締結することが出来たのです。(念ずれば花ひらく。ですね)

「森林塾」のもう一つの動機が、と言って前振りが大変長くなりましたが、ここからが本題です。森林ボランティア活動に参加するにあたり、山仕事の経験の無い超素人集団がいざ作業をするのに、何の知識も道具も無いでは南箕輪村の皆様には申し訳ないということで、今回旗振りをした私が講習会に参加することにしました。KOAの「森林塾」は森のライフ

スタイル研究所の竹垣さんのお奨めで、なかで「専門コース」を選んだのは最初に書きましたように、私がチェンソーの取り扱いをこれから学びたいと思ったからです。

やっと指定された文字数になりましたのでまとめさせて頂きます。

チェンソーのメンテナンスが出来ていないが為に、チェンソーの使用に変な癖が出来てしまっています。何度も早川先生に指摘されましたので、次回までにはチェンソーの使用後には常に手入れを行い、切れる状態に保って悪い癖を直して、次回9月の講習を迎えたいと思います。早川先生、松岡さん、吉柴さん、水谷さんあと二回の講習会よろしくお願ひいたします。その時は、怪我無く楽しく伐倒しましょう。

リレー通信



「残夢整理」

金子 誠一

ウグイス、コガラ、ルリビタキ、春の朝をかき回す様な小鳥たちのさえずりを聴き、山の稜線を眺めながら、風の香り・光の変化を感じ、毎回初日に伊那市街から鳩吹の山荘まで、歩いて通う事が日課になりました。いつも色々考え事をするのに丁度良いなど、歩き始めるのですが、暫くすると、何も考えていないことに気がきます。それはそれで有意義な時間でもありません。都会ではこうはいかない(雑念だらけ)。

生まれ育ちが東京下町で、山登りの趣味があるわけでも無く、エコだ地球に優しくだ、と聞くと、イラツとくる天邪鬼な自分が、今こうして森林塾に参加することになつた多少の経緯・動機など、お伝えできればと思えます。

吹けばと飛ぶ様な零細出版社、数社を渡り歩き、数年前から山の現状を憂う書籍を何冊か手に取り、鼻毛など抜きながら、第三者、傍観者の目線で眺めておりました。そんな折、仕事途中に「緑の雇用ガイダンス」なるイベントが目にとまりました。打合せまで時間もありません。覗いてみる事に。それはどが担い手不足かと思わせる様な盛況ぶり、会場ではチェンソーアートの実演や、この制度のもと林業に就職された

方の体験談及び暮らしぶり等の質疑応答など、その他菅原文太のトークショーなども(何でここに?)。そこには如何にも若い人目に向けて欲しいのだからと思わせる主催者の演出図が。帰りがけ、おそらく胸元である(林業普及協会?)とおぼしき人に「40半ばすぎのオッサンには関係ないですよ」と尋ねてみたところ「いや、林業の世界ではまだ若い方ですよ」との事。「来週末、長野で林業関係の合同説明会が行われるので興味があれば」と訪ねてみられては「とのたまたまれる。ま、帰りに温泉にでも浸かり、馬刺しをアテに一杯やるのも悪くないな」と、なんと不純な動機で出掛ける事にしたのでした。

当日会場は9割方が20、30代の若い人ばかり、そして皆真剣な面持ち。中に何人ものスポーツ姿を散見しました。やはり場違いであったと多少の反省もしましたが、折角来たのだからと思ひ直しまして、いかにも組合事務方トップを思わせる、少し癖のありそうな面持ちの方の前に。相手の方が開口一番「何で林業に」「そつです、自然が」「山が」「好きで」「その刹那、瞳の奥に闇いほむらが揺らめくのが見えました。そこからは巻き舌、へらん

めえ調で、したくも無い質問を仕方なく、との雰囲気、そして最後に「知識も経験も無く、ましてその年齢じゃあな」と徐に周りを見まわし「どこも同じだと思つぞ」「なるほど。」ただ、その調べ、いや、言葉になにか懐かしさを感じたしだいです。(昔下町にはこの様なオヤジが多数生息しておりました)

そ、柴刈りに行く予定のオッサンが逆にシバかれて帰って来たのでした。それから2年程たった頃、書籍の森の散策中、一冊の本が目にとまる。「山造り承ります」。さつそく買って読みました。著者であります島崎先生の日本の山に対するその目線、真摯な思い、そして憂いが記されており、まさに理論と実践を併せ持った、森の泰斗その人ではないかと。文章を通して感じられる人としての味、音色。そしてなにより、たとえ素人であっても、ハードルを下げて下さる言葉があり、それを実践している場がある。この人に私淑してみたいと、その時感じました。

これを書いているカフエの向かいの席で、アリスのすばる、いや谷村さんが、本を片手に茶をすすっている(何でここに?)サインをねだる

閑話休題

これを書いているカフエの向かいの席で、アリスのすばる、いや谷村さんが、本を片手に茶をすすっている(何でここに?)サインをねだる



など野暮なので会釈をした
ら、笑顔で返してくれた。や
たらに歯が白い。やはり芸能
人は歯が命か？

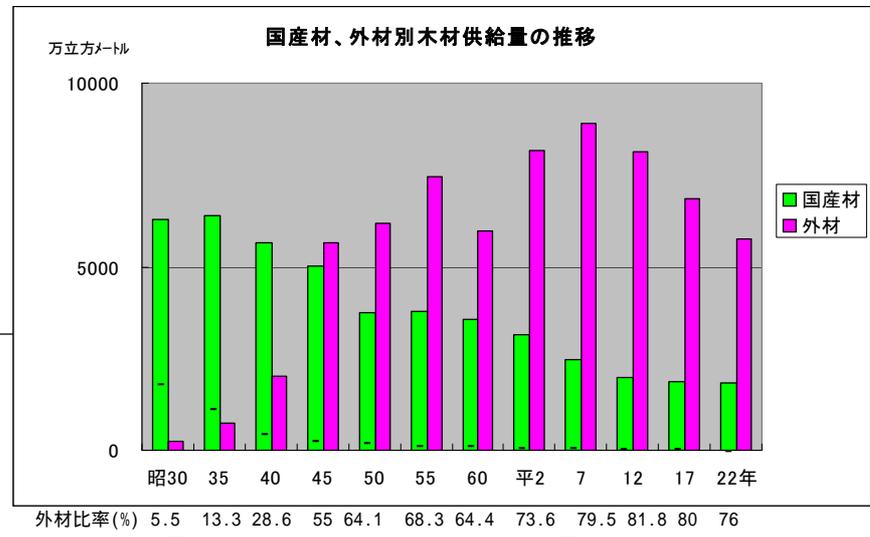
石油、石炭、食料。ミクロ
な目で観るならば、これらは
同じ物質、つまり炭素の連結
(エネルギー)。樹木(植物)
達は、水・二酸化炭素・太陽
の光、これだけの素材から作
り出す。何年前かに日本の研
究者が受賞した、ノーベル賞
の「クロスカップリング」(人
工での炭素連結)でさえ二酸
化炭素からは作れない、また
仮に作れたとしても膨大な
エネルギーと工夫がいるら
しい。おそろべし光合成。究
極のソーラーシステム。生命
圏の偉大なる合成者。まだま
だお力添えを頂かなければ。
生命は流れだとも聞きま
す。森の機能、循環が滞れば
文明が滅ぶ、歴史の教えるこ

ころでもあります。日本は自
然ではなく、じねん(自然と
自身はひとつ、一部)。
その意識の上で、先人達
(職人達)は生活文化を築き
上げてきた。東日本大震災の
後でも感じた、都市基盤の脆
弱さ、そして衣・食・住の基
本的なところを自らの力で
作り出す基礎技術のなさの
憂いが、相俟った事もありま
す。ゆえに里山で先人たちが
実践してきた、農を含めたそ
の技術、知恵を、職人達の自
尊したその爽やかさを見習
いながら、この体に染み込ま
せたい、当事者として。それ
をこれからの「残夢整理」に。
能書きは程々に。
「ハイ！」字数がせまりま
したので巻きに入ります。も
ちろん現実があります。現下
の貨幣経済のもとでは、G 難
度の荒技か、絶対矛盾的自己

統一か、
問いは続
きます。
よわい、
馬齢を重
ねたにも
係わらず
寝言が過
ぎまし
た、では
お後がよ
ろしいよ
うで。

コラム
"島さん"の
言挙げず
No.5 「木材は山から？
それとも海から？」

この図は平成22年度版森
林・林業白書に掲載の第二次
大戦後のわが国木材需給量
(丸太換算)の推移表を解り
やすく図化したもので、この
間の国産材と輸入材との間
に生じた様々な関係が読み
取られる。
わが国は敗戦によって国
土や人口は半減し、国際貿易
は総て閉ざされ、歴大な戦災
復興と経済再建の枷を背負
うこととなった。林業界も戦
前とは様相は一変し、戦中
戦後の乱伐跡地を抱えなが
ら大量な復興用材や薪炭材
の供給を強いられ、里山はお
ろか、大型索道などを駆使し
た奥地林の大面積開発も広
範に亘り、相次ぐ台風の襲来
もあって山地崩壊も多発し、
全国各地にいわゆる「禿山」
の存在が憂慮された一時期
もあった。
こうした経緯のなか国産
材価は昭和40年代初頭にか
けて一般物価や賃金の上昇



率を常に上回り、年々500
0万立方メートルを上回る
国産材の大量供給を果たす
一方、大規模な災害復旧事業
や拡大造林事業の施工や旺
盛な食糧供給活動も手伝っ
て、当事の農山村社会は未曾
有の活況を呈していた。この
時期「木材は山から」だった
のだ。
昭和30年代初頭頃から戦
後色が次第にうすれるなか、
社会・経済の変貌は目覚し
く、日米安保交渉、景気の乱
高下、水俣病・イタイイタイ
病などの公害問題の台頭、

ジャズ・ロカビリーの流行
皇太子のご成婚、南極観測船
宗谷の挫折、ガガーリンの月
探査、「もはや戦後ではな
い」、そして池田首相の「貧
乏人は麦を食え」など枚挙に
暇はない。
林業界の異変は海から
やってきた。昭和30年代に
入って再開された始めた国際
貿易である。多国籍企業(貿
易会社)による大量な石油の
輸入によって、それまでわが
国エネルギー供給の主役で
あった薪炭産業はわずか十
数年で駆逐され(2000万

外材比率(%) 5.5 13.3 28.6 55 64.1 68.3 64.4 73.6 79.5 81.8 80 76
国産材の - から下は薪炭、しいたけ原木
要材各大大での成度か済一方経
にの種すは過長経ら再
応需用る増程へ済高建
ている。残され語録も
命「燃料革
ルに」(、
メートル
万立方
100
ルから
メートル
立方

投稿大歓迎。ご意見、ご質問
ご要望は早川・松岡(事務局)
までご連絡ください
TEL 0265-70-7065
FAX 0265-70-7994
E-mail:
mi-matsuoka@koanet.co.jp
ki-hayakawa@koanet.co.jp
携帯:090-4463-0062(開催日)
URL http://www.koanet.co.jp

島崎 洋路
数字の上では「木材は海か
ら」と言つべきか? 国内の森
林資源は本格的な成熟期を
迎え始めており、国際貿易収
支の均衡を図るための主要
品目でもあるのだが。
以降景気の低迷傾向はか
なり明らかで、木材の需給総
量も一貫して減量が続ぎ、最
近では7000万立方メー
トル台まで低下してきてい
るが、外材率はなお75%あ
りを占めている。
「木材は海から」と言つべきか? 国内の森
林資源は本格的な成熟期を
迎え始めており、国際貿易収
支の均衡を図るための主要
品目でもあるのだが。